

くもみす いあく
雲水の行方や何処なるらん Part5
ある時は雲水、あるときはガードマン

三田—長崎—広島—三田 2000キロを歩く

兵庫県三田市 ■ チョウ ソウ ホワン (ハングル講師)

■漢詩

酒迎天信・日本山妙法寺 大僧伽 責任役員

◎ストーンウオーク慰霊行脚ニ題ス
一閃ノ妖光 豈忘ルベケンヤ
啾啾ト鬼哭イテ 人ノ腸ヲ断ッ
安ラカニ眠レト回向ス 六句ノ忌
平和ヲ熱禱シテ 石ヲ曳イテ長シ

◎同行ノ淑媛 (注) 諸氏ニ呈ス
花貌軽装ノ朋来ル
口喉暑ヲ忘レテ議論深シ
請ッ看ヨ石ヲ曳イテ 蓮歩ヲ廃ス
不戦平和ノ一片ノ心ヲ

(注) 淑媛……作者から同行の女性に贈られた詩で、私が作者の酒迎上人にお願ひをしてここに記載するものである。

「綺麗な娘さんたちが大勢集まった。暑さを忘れて、細い腹の中から声高く議論している。ごらんなさいよ、女性のしなやかな歩み



左が酒迎天信さん



背高女の出現



動く工事現場のガードマンを務める
チョウウさん

などはそっちのけで石を曳くあの不
戦平和の心のあらわれを」

意識・酒迎天信

【問い合わせ先】自坊 別府市実相寺山
TEL・FAX 0977-22-1256

■ストーンウオークとは何であったのか……

多くを語るまでもない。上記の「漢詩」と下記の「背高女の出現」に目を通していただければ幸いである。

反戦・平和への思いが結集する「アリランに捧ぐ」私の旅！ 思いもかけぬガードマンの大役をいただいた。本誌「パトローネ」の普及も兼ねて悠然と錫杖を振鳴らし、網代笠に墨染めの雲水僧姿で動く座禅を実践するつもりでいた。あにはからんや、道中の大半を「動く工事現場」にも似たストーン・ウオークの先導役としての役をひきうけたのである。交通の激しい公道、400メートルもある狭いトンネルも幾つかあった。片側通行にするために私は走りに走り続けた。各地の古道や巡礼、遍路道を歩いてきたが走ることは一度もなかった。痛めた足を引きずる私を多くの人がサポートしてくれた。

■広義の反戦・平和への思いは

私のライフワークでもある

「アリランに捧げる」とも一致している事に感動し、期待をかけて「通し行進者」の一人として参加するために四国を縦断、大分、熊本を歩き島原、雲仙を経て長崎に着いた。8月4日以後の三田市に向かっての帰路の歩きを含めて80日間、1日の平均が25キロメートルであった。



7月2日、ストーンウオークはスタート。雲水姿の筆者(左端)

■「1400キロ、46夜の野宿の一人旅」

衆議院が解散したのも知らずに乞食(こつじき)野宿の旅を続けていた。それを知ったのは実に8月の下旬であった。当初73kgの体重が65kgとなり、170近い血圧が123の正常になった事はうれしかった。今回の野宿の場所は意識してなるべく神社の境内を借りた。天皇制賛美の知識人の出現に対する思いと、昭和の残したものがまだ終わらず、清算されていない事を知るためであった。

■「戦後はまだ終わっていなかった」

私は前号で敗戦60年の私なりの戦後が今終わる……と書いたが、これは誤りである事に気付いた。日本という東北アジアの秘境めいた怪しげなこの国に居住する限り、私の「アリランに捧ぐ」鎮魂の旅は今後も続けられるであろう。

■～背高女～ここにも神出鬼没する！

さわがしく、楽しく存在感を誇示する2.5メートルの身長になった「背高女」たちが、長崎から広島までの間、再三再四にわたってその勇姿を私たちの前に現わし、夢と元気をその都度あたえてくれた。「背高女」は「戦争をしない日本であり続けるために」各地の平和集会、ピース・ウオークなどに自主的に参加している平和の天使の分身たちなのである。

☆もう戦争はやめて！

☆自衛隊は帰って来て！

☆戦争に協力しないで！

などが「背高女」のスローガンであり、地球をこわさないで、戦争に税金つかうのやめて、平和が好きやねん等のスローガンを前面に打ち出している反戦・平和主義者の集団である。

【背高女への問合せ先】

背高女プロジェクト

世話人 西川日奈子

TEL・FAX 06-6477-3806